

伯耆古代の丘エリア活性化構想



(妻木晩田から淀江平野、美保湾を望む)

令和2年2月作成

米子市淀江振興本部

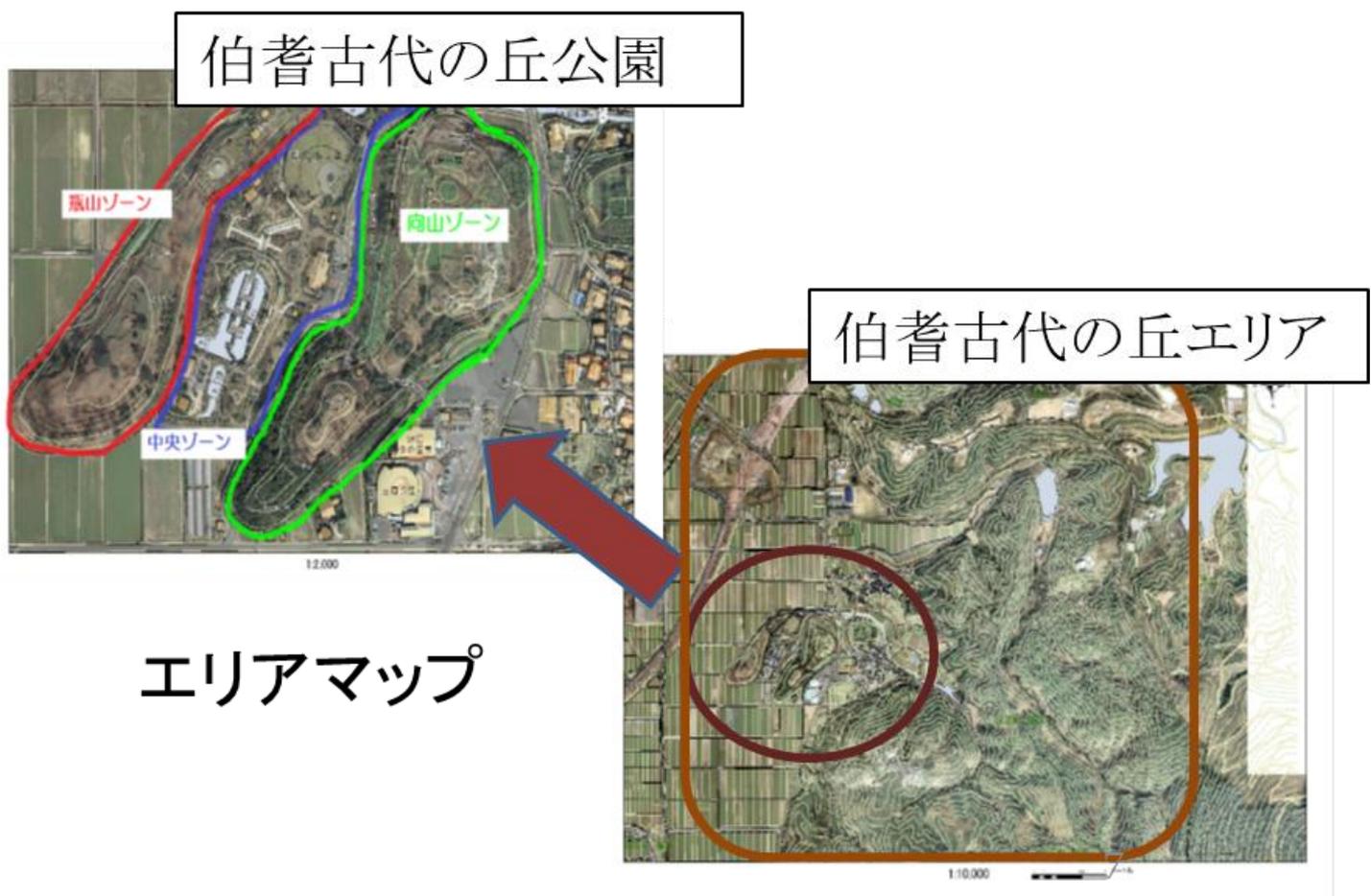
目 次

1. はじめに	2
2. 伯耆古代の丘エリア施設群の現状と課題	3
3. 伯耆古代の丘エリア・施設群のめざすべき姿	4
(1) 伯耆古代の丘エリア（米子市所管部分）の今後の運営のあり方	4
(2) 伯耆古代の丘エリア活性化に向けた施策	4
① エリア内の協力体制の構築	4
② 妻木晩田遺跡との連携を推進する施策	5
③ 賑わいを創出するための施策	6
A) 新しい顧客層の開拓	6
B) エリア内施設の再整備	7
C) エリアへの誘導施策	9
(3) 伯耆古代の丘エリア施設群来場者の数値目標	9

1. はじめに

米子市のまちづくりの基本目標である「歴史と文化に根差したまちづくり」を推進する中で、淀江地区においては、平成30年4月総合政策部内に淀江振興本部を設置し、淀江地域が潜在的に持っている魅力を活かした地域づくりの推進を図っています。その中で、まず旧淀江町時代から大規模な投資を行い、地域の大きな魅力の一つとなっている伯耆古代の丘エリア(注1)の活性化に向けた検討を関係部署・機関等とを行い、今後概ね5年間のこのエリアでの賑わいづくりの考え方を『伯耆古代の丘エリア活性化構想』としてまとめました。

※注1：伯耆古代の丘エリアとは、「淀江ゆめ温泉」「伯耆古代の丘公園」「上淀白鳳の丘展示館」の施設を中心として、その周辺に存在する向山古墳群、上淀廃寺跡などの史跡・古墳群及び株式会社白鳳所有の物産館「白鳳の里」、県立むきばんだ史跡公園を含むエリア。



2. 伯耆古代の丘エリア施設群の現状と課題

【施設等の利用者数と指定管理者】

施設名等	建築年	利用者数（人）		指定管理者	備考
		平成 18 年度	平成 30 年度		
淀江ゆめ温泉	平成 12 年	139,261	127,647	(株)白鳳	令和 2 年度まで
上淀白鳳の丘展示館 (旧淀江町歴史民俗資料館)	昭和 60 年 ガイダンス施設： 平成 22 年	(旧資料館)3,973 ※平成 23 年度 9,361	2,932		
伯耆古代の丘公園	平成 7 年	13,176	8,668		
上淀廃寺跡・向山古墳群	平成 11 年と 平成 8 年に 国史跡指定	—	—		
農林水産物直売施設 「白鳳の里(どんぐり館)」	平成 7 年	—	—	(株)白鳳所有	平成 30 年 12 月～ 休止中
鳥取県立 むきぼんだ史跡公園	平成 11 年国 史跡指定	28,413	40,332	鳥取県教育 文化財団	平成 31 年度から 5 年間

【主な課題とそれに対する施策】

分類	項目	場所	現状と課題	将来像
歴史 文化 振興	史跡の整備 賑わいの創出 既存施設の活用	向山古墳群	園路、階段、サイン類や 柵の老朽化が進行	古墳群全体の基礎的な整備を 要す。 土系舗装や遺構展示の修復整 備、法面の保護 入園料無料化(H31.4.1 実施済み) 集客に向けた園内整備・改修
		上淀廃寺跡	第Ⅱ期整備は未着手 遺跡法面の崩落が進行中	
		伯耆古代の丘公園	賑わい創出に向けた方策 関係者との協議検討	
観光	インバウンド需 要の取り込み	伯耆古代の丘エリ ア	道路・施設・パンフレッ ト等の多言語標記	新しい顧客層の獲得 リピーターの定着化
スポ ーツ 振興	サイクリストの 聖地化	伯耆古代の丘エリ アを起点とする一 帯	県などが策定した既存の 広域サイクリングルート からエリアへの引き込み	
その 他	施設の長寿命化	淀江ゆめ温泉 伯耆古代の丘公園	施設の老朽化に伴う修繕 リニューアルによる集客 力の向上	

3. 伯耆古代の丘エリア・施設群のめざすべき姿

伯耆古代の丘エリアを、『史跡と田園風景の中で、非日常的な気分を体験できるエリア』となるよう活性化構想をまとめました。

(1) 伯耆古代の丘エリア（米子市所管部分）の今後の運営のあり方

① 淀江ゆめ温泉

温泉の泉源の権利は民間事業者が有しており、設立の経緯や経営のノウハウの蓄積もあることから、引き続き泉源の権利を持つ民間事業者が運営管理を行います。

ただし、将来的には、施設を民間事業者への譲渡・売却も視野にあり方を考えます。

② 上淀白鳳の丘展示館

管理運営には歴史の専門性が必要であり、かつ市内の同様な施設（山陰歴史館、福市考古資料館）との連携を図ることでの相乗効果も期待できることから、同一の指定管理者での管理運営がより望ましいと考えます。

③ 伯耆古代の丘公園

「誰でも気軽に利用でき懐かしさや非日常的な気分を体験できる公園」にしていくため着手可能なところから実施することとしており、まず平成31年4月入園料の無料化を行い“より気軽に利用しやすくなるように”再出発したところです。一方、開園以来魅力の一つである「体験メニュー」について、近隣のむきぼんだ史跡公園と重なるものも多く見受けられることから、伯耆古代の丘公園独自のメニューへ変更していく必要があります。開園当初学芸員がメニューの開発に加わっていましたが、現在配置されていないことから学芸員のいる上淀白鳳の丘展示館と連携を密にすることが効率的であり、指定管理を同じ者がすることが望ましいと考えます。

④ 上淀廃寺跡、向山古墳群

上淀廃寺跡、向山古墳群は、いずれも上淀白鳳の丘展示館が自主事業として実施する史跡案内で活用していることから、上淀白鳳の丘展示館、伯耆古代の丘公園の指定管理業務の一環として管理することが適当と考えます。

(2) 伯耆古代の丘エリア活性化に向けた施策

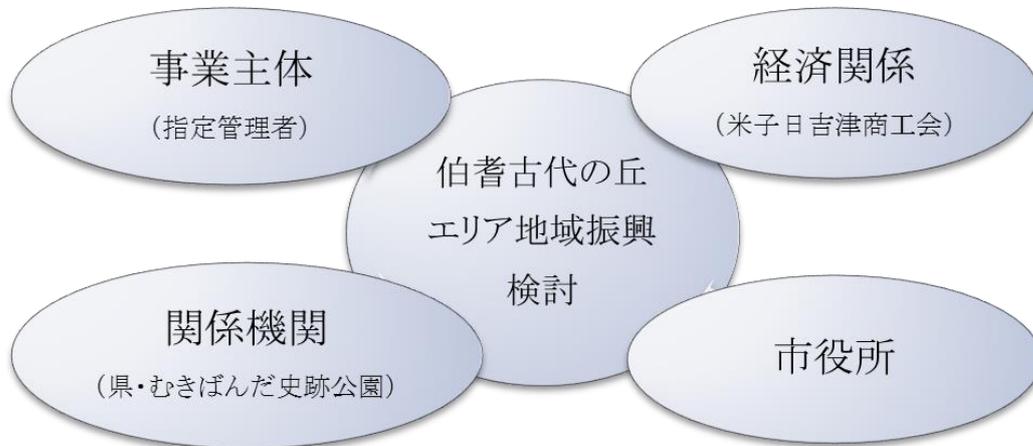
旧淀江町時代からまちづくりのテーマとしてきた「水」・「緑」・「史跡」という魅力の活用をエリア活性化に向けた運営の基本に据え、このエリアで特筆すべき点を3つのキーワードとして示し活性化に向けた施策のポイントとします。

① エリア内の協力体制の構築

エリア内施設等の運営などに深く関与する鳥取県、指定管理者及び米子市、更にサイクリングイベントなどを通し深く関与する米子日吉津商工会が協力してエリア全体としての賑わいづくりを取り組んでいきます。

淀江地域振興にむけた伯耆古代の丘エリア関係者

～組織体系と協力機関の関係イメージ～



<具体策>

- ・エリア情報発信の一元化
- ・情報発信ツールとしてエリア共通のパンフレットの作成

② 妻木晩田遺跡との連携を推進する施策(向山古墳群、上淀廃寺跡等重要史跡活用を含む。)

キーワード：『遺跡博物館』

※歴史学者をして「たくさんの貴重な遺跡を、これだけ見て回れる充実した歴史的環境は、日本のどこを探しても見当たらない」と言われるエリアである。

このエリアには、縄文時代から奈良時代にかけて国内最大規模の弥生集落遺跡“妻木晩田遺跡”、古墳に祀られた本州唯一の“石馬”、山陰随一の前方後円墳密集地、そして国内最古級の仏教壁画が出土した幻の白鳳寺院“上淀廃寺跡”などコンパクトなエリア内に各時代の重要な史跡が数多く存在する正に壮大な遺跡博物館です。

鳥取県と連携を図りながらエリア全体の史跡をストーリー性のある見せ方を発信するとともに、それに合わせたルートづくりも考えていきます。

なお、向山古墳群、上淀廃寺跡など重要な史跡についての整備は、別途「保存活用計画」「整備基本計画」を策定し、国からの補助金等を活用しながら行うこととします。

<具体策>

- ・“魅せる”ストーリーづくりとパンフレットの作成
- ・ストーリーに合わせたルートづくり
- ・ストーリーの発信

③賑わいを創出するための施策

A) 新しい顧客層の開拓

キーワード：『交流（国内・国際）』

※角田遺跡の線刻絵画は、古くからこの地が天然の良港を背景に、九州、半島あるいは大陸との交流により繁栄したであろうとかがわせる。

○スポーツツーリズムの推進による新しい顧客層の開拓

伯耆古代の丘公園周辺は、以前から米子日吉津商工会が主催するサイクリングイベントの拠点として使用されています。近年ではサイクリング愛好家やウォーキング愛好家が集う場となってきています。また、鳥取県西部圏域でも外国人サイクリング愛好家が走る姿も多く見受けられるようになっており、新たに外国人サイクリング愛好家も含め、より多くのサイクリング愛好家が集える場としても整備していきます。



境港から皆生までのルート



エリア内ルート

<具体策>

- ・鳥取県などにより整備されたサイクリングルートからエリアへ誘導するためのルートづくり
- ・エリア内、施設内のパンフレットや案内看板の外国語表記を拡充する。
- ・施設内トイレのユニバーサルデザイン化の推進。

キーワード：『名水』『大山』

※白鳳の里オープン以来、国内産の厳選大豆と大山の恵みを受けた淀江の名水を使って自家工房で手作りにこだわり好評の“名水とうふ”。

また、大山寺中興の祖「豪円僧正」の出生地が上淀と言われており、大山とこのエリアは縁深い。

○「豆腐」を活用した誘客戦略

白鳳の里が手作りにこだわった“名水とうふ”は、オープン以来20数年根強いファンを持ち続けています。この人気商品を活用し新しい顧客層への開拓へつながるメニューの研究を行います。

<具体策>

- ・豆腐を活用した料理メニューの研究・開発。

○エリアからのルートづくり

昔から大山との関わりが深いことから大山エリアとの連携の可能性を模索します。

<具体策>

- ・伯耆古代の丘エリアから大山へのルートづくりの検討。

B) エリア内施設の再整備

エリア内の施設は、伯耆古代の丘公園が平成7年オープン、淀江ゆめ温泉が平成12年オープン、上淀白鳳の丘展示館の前身の旧淀江町歴史民俗資料館が昭和60年開館（平成22年度ガイダンス施設併設）と一部を除き20年以上経過し、それぞれ施設の老朽化と利用者数の低迷が続いています。しかし、いずれの施設もエリア内の賑わい創出には欠かせない施設であり、『史跡と田園風景の中で、非日常的な気分を体験できるエリア』を実現するための再整備を行うことが必要です。

ア) 淀江ゆめ温泉

エリア内で一番の集客数が期待できる施設でもあり、重要な史跡からすぐにある温泉という魅力が体感できる施設です。しかし、オープンから20年近く経過し設備等の更新時期にもなっていることから、年次的に改修・更新をすることで施設の長寿命化と利便性の向上を図っていきます。

<具体策>

- ・施設の長寿命化のための設備等の更新。

イ) 上淀白鳳の丘展示館

展示館は淀江地域の歴史発信拠点施設でもあり、常設展のみならず企画展など自主事業を一層展開することで、魅力の発信を行っていきます。また、妻木晩田遺跡との連携を推進するためボランティアガイドとの連携も図っていきます。

<具体策>

- ・企画展の開催と講座の開催による魅力発信。
- ・（妻木晩田ボランティアガイドとの連携を図り）エリア内史跡の魅力を発信する
- ・公民館講座等とも連携を図りながら、このエリアの認識を深め、市民への地域の誇りと郷土愛の醸成を図る。

ウ) 伯耆古代の丘公園

平成7年開園した伯耆古代の丘公園は、木製を基調に造られているため、経年劣化による施設の傷みが顕著になっており、利用者数も1万人前後と全盛時の3分の1以下にまで落ち込んでいる状況です。しかし、開園以来人気の古代ハスをはじめとする約40種類の

ハスが咲く“古代ハスの園”や近年さくら祭りで好評の“桜”など「公園のセールスポイント」となるスポットもあり、伸ばすものと改善していくものといった区分けを行いながら再整備に当たっては、特に「子ども連れのファミリー層」が「史跡や田園風景の中で、非日常的な体験ができる」ように取り組みます。



公園の代表的な大賀ハス



桜の咲く伯耆古代の丘公園



芝生広場

<施設整備に関する方針>

- “古代ハスの園”や“桜”などの花木は継続して維持管理を充実する。
- 「高床式建物」を含めた“弥生村”は、修繕は行わず撤去をすることとし、古墳を模した遊具（円墳の滑り台のような遊具）の設置を検討する。ただし、「弥生村」のある瓶山は、山陰自動車道に面しており、高床式建物は施設群のシンボルタワー的役割を担い目印にもなっていることから、瓶山を施設群の目印となるような活用方法も検討する必要があるため、撤去については瓶山の保存活用計画に基づく整備と時期を併せ実施する。
- 古代ハスの園の回廊や木製大型遊具に関しては、将来的に劣化が進み、安全が確保できない状況になった場合は撤去することとし、大規模改修や同様のものを新たに設置しない。
- 「ジャブジャブ池」は、池を埋め立てバーベキューも可能となるようなフリースペースとして活用する。
- 「古代体験の館」は土器など“ものづくり体験”コーナーとして活用を図り、「管理棟」については、1階の展示スペースを撤去し、お手玉やけん玉など昔ながらのおもちゃで遊ぶ“昔遊び体験”コーナーとして活用する。
- 遊具については充実を図る。

<賑わいを創出するための具体策>

・体験メニューの充実

学芸員を中心に新しい体験メニューを検討します。体験メニューは、子どもたちが史跡や田園風景の中で、非日常的な体験ができることとし、むきばんだ史跡公園の体験メニューと同じものは原則行わないこととし、予約なしでも気軽に楽しめる体験メニューについても研究します。

<将来的な課題>

利用者の増加に伴い、公園周辺の道路や駐車場の整備の時期や方法など、検討していく必要があります。

エ) 上淀廃寺跡、向山古墳群

国史跡であることから別途「保存活用計画」「整備基本計画」(以下「活用計画」)を策定し、国からの補助金等を活用しながら整備を行っていくこととしますが、当面の間上淀廃寺跡は草刈りを頻繁に行うことで緑地広場として活用できるようにしていきます。

また、向山古墳群は、エリア内の“遺跡博物館”を体感していただくためウォーキングコースの一部としても活用できるよう、重要な史跡を歩いて回れるよう遊歩道の点検・整備と重要古墳の見せる化を図ります。

Ｃ) エリアへの誘導施策

鳥取県屋外広告物条例により新たに広告物を設置することができないため、山陰自動車道側に位置する瓶山(向山古墳群の一部)を活用し、下草刈りや花の植栽など周りの風景との差別化を図ることで新たにエリアへ誘導するサインの整備を「活用計画」を策定する中で検討します。

(3) 伯耆古代の丘エリア施設群来場者の数値目標

エリアでの滞留者を増やすため、それぞれの施設ごとに目標数値を定めエリア全体の賑わいづくりに繋がります。

○現状値の設定

屋外施設の来場者数については、イベント開催時の天候状況等に左右される面が大きく、また温泉施設についても近隣の同様施設の運営管理状況により入浴者数に影響があるため、直近3か年の入場者数の平均値を現状値として設定します。

施設名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	3か年平均値
伯耆古代の丘公園	10,496	9,268	8,668	9,477
上淀白鳳の丘展示館	3,546	3,174	2,932	3,217
淀江ゆめ温泉	104,986	137,102	127,647	123,245
(小計)				135,939
むきばんだ史跡公園	34,598	32,952	40,332	35,960
(エリア施設合計)				171,899

○目標値の設定

施設名	目標値の説明	5年後の目標値 【令和6年度末】
伯耆古代の丘公園	・開園時のセレモニーも一段落した平成9年度の入園者数を目標値とし、毎年度4,000名ずつ入園者を増やしていくよう努力する。(現状値の3倍)	29,000
上淀白鳳の丘展示館	・リニューアルオープン以来入館者数は毎年減少傾向だが、趣向を凝らした自主事業の展開により、5年前を超える水準まで回復させるため、毎年度200名ずつ入館者数を増やすよう設定する。	4,200
淀江ゆめ温泉	・快適に入浴するためには浴場の広さから年間13万人程度と想定しており、それを達成するために毎年度1%ずつ入浴者を増やすよう努力する。	129,500
むきばんだ史跡公園	・毎年度1%ずつ入園者数が増えると想定。	37,800

《エリア内5年後の目標値》

20万人を超える